

平成 29 年度 学校評価報告書（目標設定 **実施結果**）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒が自ら「思考・判断・表現」できる力を育成するために適切な教育課程を編成し、不断の授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒が主体性を持って組織的に学校行事等を企画・運営することを通して、社会のリーダーとしての資質を育てる。</p>	<p>①職員の「主体的な学び」への理解を一層深め、様々な学習手法を用いて学力向上に取り組む。</p> <p>②学校行事や部活動における生徒の主体的取組を支援し、「松陽スタンダード」における人間力の育成を目指す。具体的な取組を推進する。</p>	<p>①生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けて、効果的な研修会や研究授業を実施し、授業力向上を目指した具体的な研究活動を学校全体の取組とする。</p> <p>②企画・運営を行う生徒と職員との「報告・連絡・相談」を徹底させ、組織的かつ効率的に行事運営を行う。</p>	<p>①授業力向上に係る研修会や研究授業が効果的に実施され、生徒による授業の振り返りシート等で「主体的な学び」に関する肯定的な回答率が9割以上となったか。</p> <p>②生徒と教員がコミュニケーションを良好にし、組織的かつ効率的な行事運営を行い、生徒の充実感が高まったか。</p>	<p>①「授業力向上推進校内研修会(9月)」「公開研究授業(11月)」を実施し、生徒による授業の振り返りシートで全体平均9割以上の生徒が「考えを深めることができた」と回答した。</p> <p>②長期休業等で連絡が取りにくい時には活動報告シートを作成して生徒と教員とのコミュニケーションを密にし、効率的に行事運営ができた。行事が終わった後の反省会で、生徒が成果や課題について自主的に話し合う中で充実感の高まりを見て取ることができた。</p>	<p>①授業における「問いかけ」の目的・位置付けを明確にし、生徒の「主体的で深い学び」を評価する観点・方法について、一層の研究・開発を進める。</p> <p>②生徒の見通しが十分ではなく運営が滞ってしまうことがあったため、先を見据えて生徒同士で具体的な課題について話し合う機会を持たせることで、生徒のコミュニケーション力を高める。</p>	<p>①生徒による授業評価も高く、授業改善は順調に進んでいることがわかるが、主体的取組について課題のある生徒に対する対応が必要である。今後も引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>②学校行事や部活動において生徒の主体的取組が支援され、主体性が高められている。</p>	<p>①授業デザインをテーマとした校内研修会や、生徒が主体的に深く学ぶための「問いかけ」を組み込んだ公開研究授業を実施し、授業改善の方向性について共有した。今後、主体的、対話的で深い学びに対する評価方法が課題である。</p> <p>②生徒が主体的に学校行事等を企画・運営し、評価、改善していく体制が形成されている。</p>	<p>①生徒の「思考力・判断力・表現力等」を効果的に育成する学習・指導方法及び学習の実現状況を適切に測る評価方法について研究を進める。</p> <p>②引き続き、生徒が主体的に学校行事等を企画・運営・評価できる体制を維持していく。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①交通事故や学びの環境等に対して自ら意識し改善する態度を養う。</p> <p>②生徒の健やかな心身の育成及び社会生活を営むうえでの道徳観の深化を支える相談・支援体制の充実を図る。</p>	<p>①マナー教育を推進し、生活面での「松陽スタンダード」を定着させる手立てを実践する。</p> <p>②より充実した相談体制・支援体制を構築する。</p>	<p>①昨年度まで、年1回1年生のみで実施してきた交通安全教育を各学年で実施することで、交通安全について考える機会を増やし、交通安全に対するルール・マナーを守る気持を定着させる。美化委員会を中心に清掃用具の点検・整備を行うことや校舎内、学校周辺の美化を推進する呼びかけを行うことで自主的に学びの環境を整える行動を定着させる。</p> <p>②教育相談コーディネーターや各学年の教育相談担当との連携をより一層深める。松陽SSE(ソーシャルスキルエデュケーション)を推し進め、生徒が自己肯定感を高め、よりよい人間関係を構築するための支援をする。</p>	<p>①交通ルール・マナーを守る気持を定着させ、通学時の事故防止につなげることができたか。学びの環境を整える自主的な行動を定着させることができたか。</p> <p>②教育相談コーディネーターや各学年の教育相談担当との連携をより一層深め、相談体制・指導体制をより充実させることができたか。</p> <p>松陽SSEの取組を実践し、生徒が自己肯定感を高め、よりよい人間関係を構築することができたか。</p>	<p>①通学時の事故件数が7件、特に1年生での発生件数が多かった(5件)ため、1年生に再度交通安全教育を行った(10月)。それ以降事故は発生していない。美化委員会が中心となり大掃除毎の清掃用具の点検・補充、定期的なモップ交換等の清掃用具の整備を実施することや松陽祭のごみ処理等を通し、学びの環境を整える姿勢は徐々に身に付いてきているが、自主的な行動の定着には至っていない。</p> <p>②教育相談コーディネーターや各学年の教育相談担当、養護教諭間の連携の充実、外部機関との連携により、相談体制・指導体制をより充実させることができた。松陽SSEのランドデザインを提示したことにより、全教職員が松陽SSEの目的を意識し、よりよい人間関係を構築するための支援をすることができたが、個別の生徒への支援は十分ではない。</p>	<p>①事故の多かった1年生に交通安全教育を繰り返したことが事故の発生を抑えることにつながった。来年度以降も状況により、柔軟な対応を心がける。美化委員会だけでなく、保健委員会や福祉委員会とも連携し、学びの環境を整える自主的な行動を定着させる活動を考案する。</p> <p>②外部機関との連携をより一層深めることにより、多様化している教育相談に対する生徒個々への支援の一層の充実を図る。こうした個別生徒への支援をより充実させることで、松陽SSEの取組を補完する。</p>	<p>①あいさつが励行され、自転車通学マナーもよい。交通事故は減少していないので、引き続き交通安全教育に取り組んで欲しい。自転車通学に対する指導としてチリリンスクールの導入を検討して欲しい。</p> <p>②主体的に行動できない生徒や人間関係の構築に課題がある生徒に対して、学校全体での指導・支援体制を構築して欲しい。</p>	<p>①通学時の自転車事故は変わらず発生している。1年生の自転車事故が多いことに対応し、随時必要な指導を行い、交通安全に繋げることができた。本年度より、万一の加害事故に対応するため自転車通学者に対し、自転車保険を義務化した。</p> <p>②教育相談コーディネーターや各学年の教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー等が連携し、相談、指導を充実させることができた。松陽SSCのランドデザインが提示されたが、よりよい人間関係を構築するための一層の指導・支援が必要である。</p>	<p>①交通事故ゼロを目指し、交通安全教育を徹底するとともに、マナー教育を系統的に実施する。</p> <p>②松陽SSEのランドデザインに基づき、個別の生徒への働きかけを充実させていく。教育相談の内容が多様化している現状を踏まえて外部機関との連携をより一層深めていくことで個々の支援体制を確立していく。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月3日実施)	総合評価(3月22日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①「行ける学校」「入れる学校」から「行きたい学校」「入りたい学校」を目指す体系的なキャリア教育を一層充実させるとともに、より高い目標実現を目指す気概を育てる。	①教科指導と連携したキャリア教育を充実し、生徒の「行きたい学校」を目指した相談・支援を行う。	①授業改善の取組と進路実現との相関性に係る検討を進める。生徒に対しての情報提供の方法として、進路室の更なる充実と「進路通信」の発行を、各学期に1度は行う。また進路業者と連携しながら、回数を増やした模擬試験の検証を毎回行い、学力向上の指針とする。	①学習指導と進路実現との相関性に係る分析は進んだか。進路室の充実と「進路通信」を各学期1回は発行することができたか。進路業者と連携して模擬試験の結果を検証することができたか。	①全学年に渡る「進路通信」の発行はできなかったが、3年生向けの情報発信は、学年進路担当教員がこまめに行い、情報提供ができた。進路室は充実し、面談での活用ならびに自習室としての機能も増した。進路業者との連携も密に行い、データの活用は生徒の願指導に大いに役立った。	①授業改善の取組と進路実現の相関性に係る検討は今後、その検証の方法を探るべく他のグループとも連携をとりながら継続的に行っていく。模擬試験を増やしたことで、昨年よりもデータが増え、生徒の願指導に役立った。指定校推薦希望者が半減した。一方センター試験の受験者は約2割増の193人にのぼった。次年度は200人越えを目指す。	①「行ける(入れる)学校」から「行きたい(入りたい)学校」への取組は、成果を上げている。一方なかなか学校が決められない生徒に対してさらに相談体制等を充実して欲しい。魅力・特色アンケートでは満足度が非常に高いことから、生徒が前向きに取り組み、適切な相談・支援体制が伺える。	①「行ける学校」から「行きたい学校」への取組は、生徒のチャレンジ意識を向上させた。全学年で模擬試験回数を増やす等キャリア行事の見直しを通じて進路支援体制を充実させることができた。適切な進路情報の提供、個別課題に対応した進路指導・支援の充実が課題である。	①進路推進グループと他のグループ、教科等との連携をとりながら、授業改善の取組と進路実現の相関性についての研究を進める。全学年に渡り、適切な進路情報の提供ができるような体制を構築し、個別課題に対応した進路相談体制を充実する。
4	地域等との協働	①地域貢献活動やボランティア活動を通じ、地域との協働を進めるなかで、地域の子どものリーダーになれる資質を育てる。	①福祉委員会や生徒会執行部を中心とした地域貢献活動やボランティア活動や部活動による地域交流を推進するとともに、より多くの生徒に活動を広げる。	①地域貢献活動やボランティア活動を福祉委員会や生徒会執行部を中心に実施する。また、クラスへの呼びかけを行い、一般生徒も参加できるような活動にする。	①福祉委員会や生徒会執行部が地域貢献活動やボランティア活動の中心としての自覚を持ち、参加する生徒は増えたか。	①福祉委員会(40名)、生徒会執行部(7名)、部活動(全校生徒の約9割)で手話を用いたあいさつ運動を実施した。書道部、サッカー部が阿久和小学校で、吹奏楽部が阿久和地区センターで交流活動を行った。地域貢献活動(地域の清掃活動)については、天候の関係で1回出来なかったが、今年度から複数回実施するようになった。	①福祉委員会・生徒会執行部によるボランティア情報の周知及び参加受付をより積極的に行うようにしていく。また、引き続き部活動等の地域交流活動を活性化させる。地域貢献活動は複数回実施していく。	①手話を用いたあいさつ運動は、継続して取り組み、さらに輪を広げて欲しい。	①生徒会役員、委員会、部活動による地域交流、地域貢献が実施された。地域貢献活動は1回から複数回に増やした。ボランティア活動への参加をさらに一般生徒へ広げる取組が必要である。	①引き続き、部活動等での手話を用いたあいさつ運動や地域交流活動を活発に実施する。
5	学校管理 学校運営	①安全管理や教育環境整備を計画的に行い、地域から信頼される学校づくりをさらに進める。 ②安全・防災に対する意識を養い、危険を予測し不測の事態に臨機応変に対応できる資質を高める。	①②学校施設面での安全確保を目指し、安全に係る情報に関して地域・保護者との連携を図る。また、家庭とも連携して防災対策を推進する。 ※急激な世代交代を踏まえ円滑な組織運営の構築を行う。	①施設老朽化に伴う危険箇所、故障箇所を迅速に除去、修理し学校環境の安全性・快適性を確保する。 ②さまざまな時間・場所での大地震遭遇を想定した図上訓練を実施することにより生徒の災害対応力を高める。また、保護者対象に防災教育に関するアンケートを実施することにより、保護者の防災への関心を喚起し、また、保護者の意見・要望を踏まえた防災対策づくりを行う。 ※各グループで個々の業務について成果と課題をまとめ、円滑な組織運営が継続できるように引継書等を作成する。	①限られた予算を有効活用し優先順位を考慮しつつ環境整備を進められたか。 ②訓練の事前、事後で生徒の防災減災に関する意識を高めることができたか。保護者が期待する災害時の対応を把握しながら防災教育や防災対策を行うことができたか。 ※各グループで個々の業務について成果と課題がまとめられ、引継書等の資料が作成されたか。	①老朽化した生徒昇降ロムメッセージボードの改修や図書室ベンチの制作が職員により実現し、また、ランニングコース整備や中庭の共有スペース緑化整備が進んだ。 ②1年生は学校内で、2、3年生は学校外(繁華街や観光地)で大規模地震に遭遇したことを想定した図上訓練を実施し、グループワークを通して災害への心構え・対応力がより高まった。 ※各グループで個々の業務が円滑に継続できるように引継ぎ文書等を作成した。	①各所の老朽化に伴い、毎年度営繕等の関連費を予算化し、部分修理など校内整備の要望に柔軟に対応できるようにすることが望ましい。 ②保護者との意見交換は、PTA会合のみで、全保護者へのアンケート実施には至らなかった。次年度は、より広く意見を聞けるようにする。 ※引き続き、各グループで個々の業務について成果と課題をまとめ、円滑な業務の継続と引継ぎができるようにしていく。	①施設や設備の老朽化に対応している。保護者とも連携を図り、快適な学習環境の整備に向けて取り組んでいる。DIGを活用した災害時防災訓練は大変評価できる。	①老朽化した施設・設備の整備が順次行われている。今後大規模な改修が必要となるものもある。安全点検に努め、計画的な環境整備が必要である。防災については、本校が補助的避難場所になることをふまえ、地域との連携が必要となる。 ※教職員の大量異動を踏まえ、円滑な引継ぎ、組織運営の体制構築が必要である。	①老朽化した施設・設備の更新・整備を計画的に実施していく。引き続きDIGを活用した災害時防災訓練を実施し、生徒の安全・防災に対する意識を高める。 ※各グループで円滑な業務の継続と引継ぎができるような体制を構築していく。